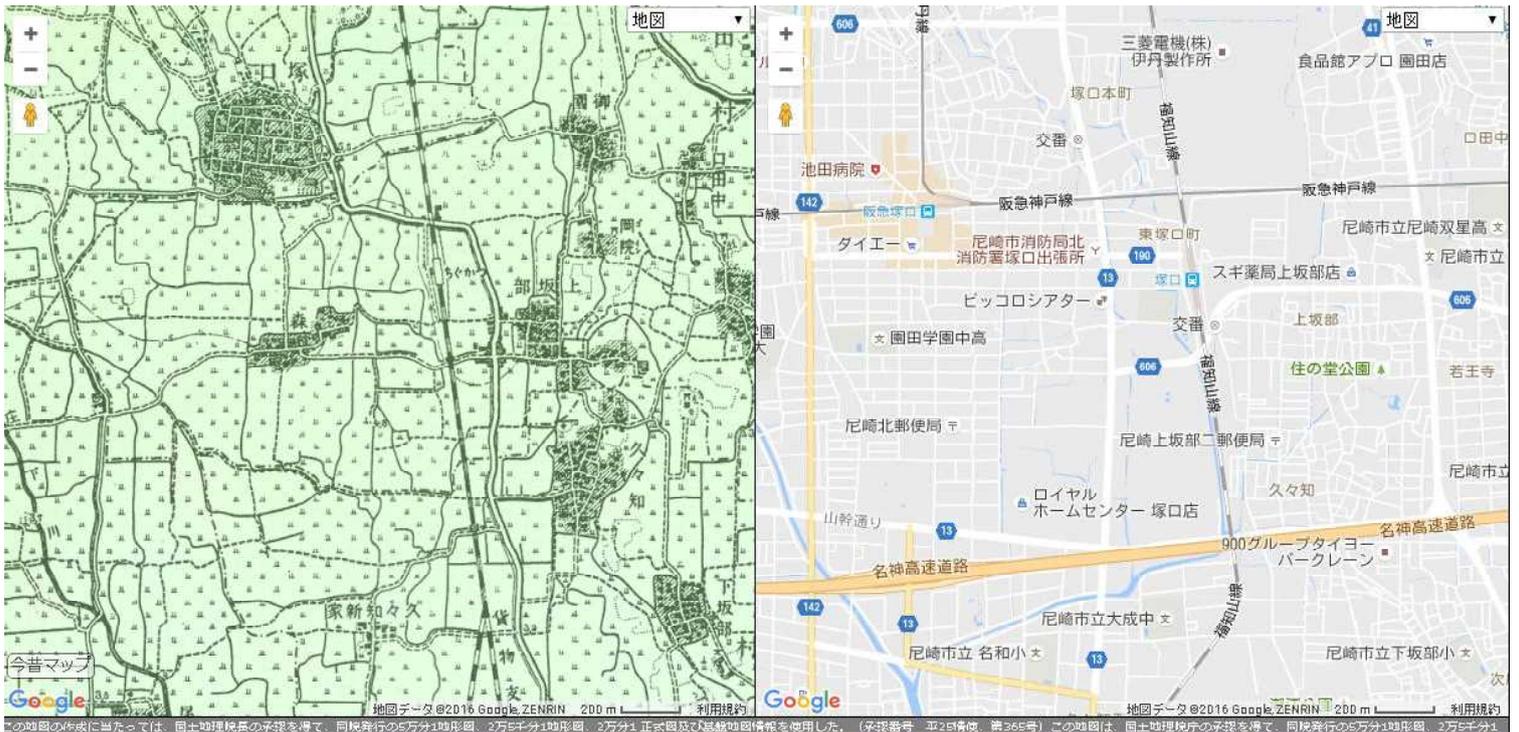
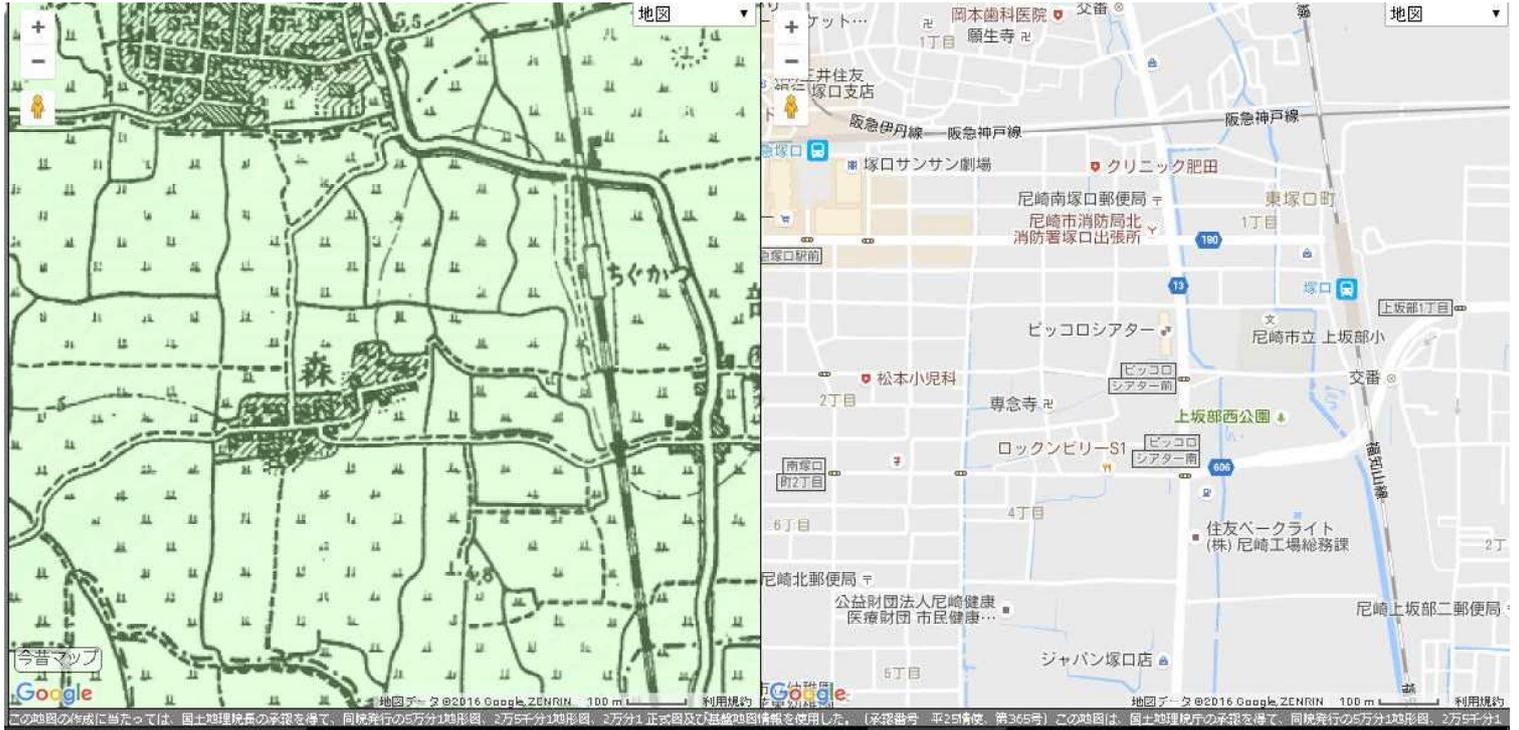


地図でくらべてみよう 上坂部の今と昔

上段 上坂部小近辺 下段 拡大域

1892～1910年ごろ

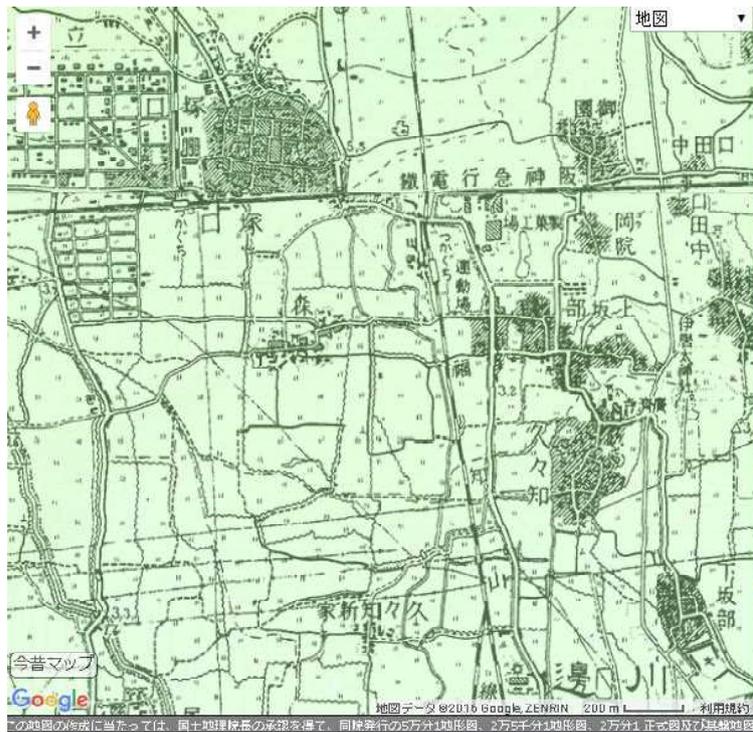
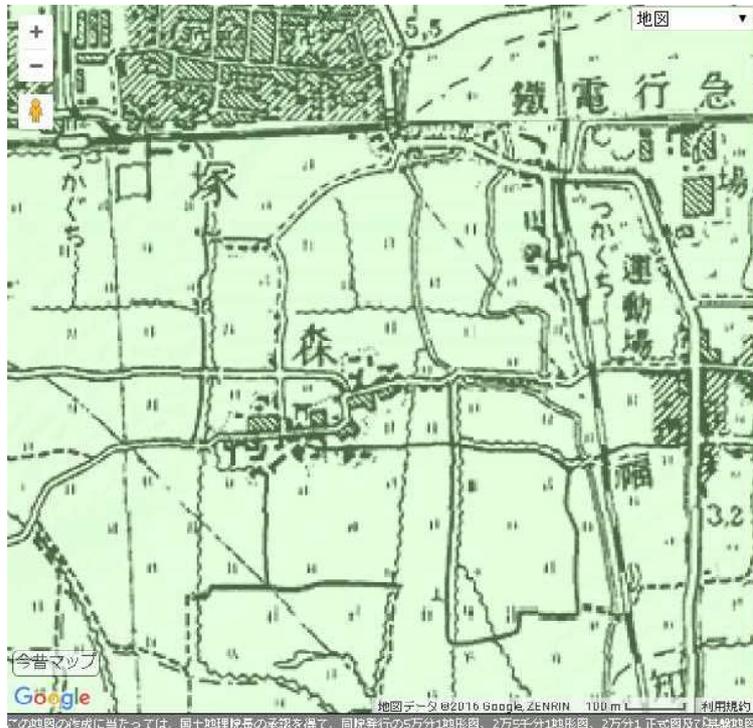


この地図は、時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」(C)谷 謙二)により作成したものです。

国土地理院庁承認 5万分1地形図、2万5千分1 (承認番号 平25情使、第365号)

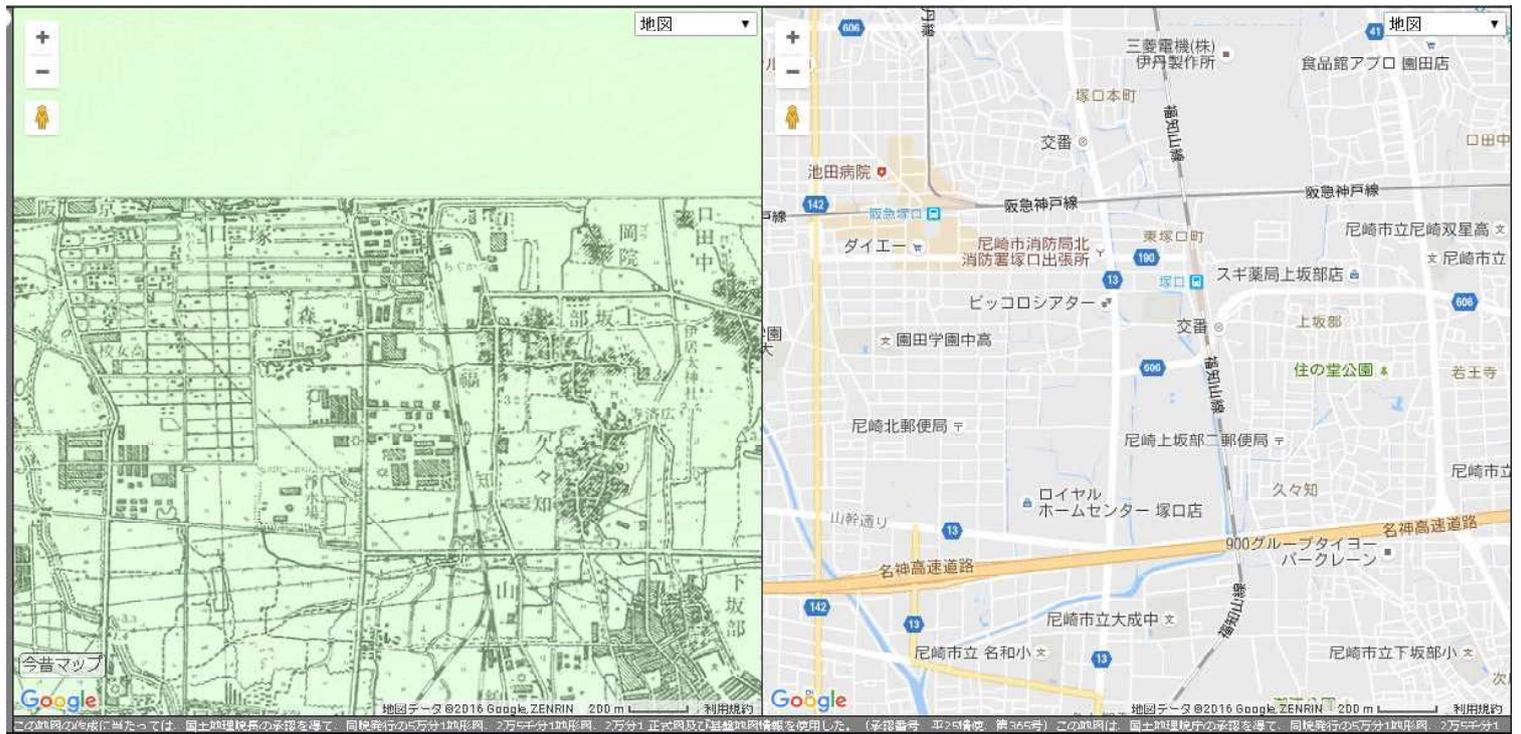
JR(国鉄)は走っていました。塚口駅を南下すると線が、二股に分岐していますが、東側の線は貨物用の支線です。阪急はまだありません。駅周辺は田んぼで、森、塚口、上坂部、久々知などの集落が見られます。鉄道の東側に並行している道は、かつては大名行列も通ったと言われる池田街道(有馬街道分岐)です。街道の東側に上坂部集落があり、塚口駅北で一旦西進し、また北上するあたりに塚口集落があります。

1927～1935年ごろ



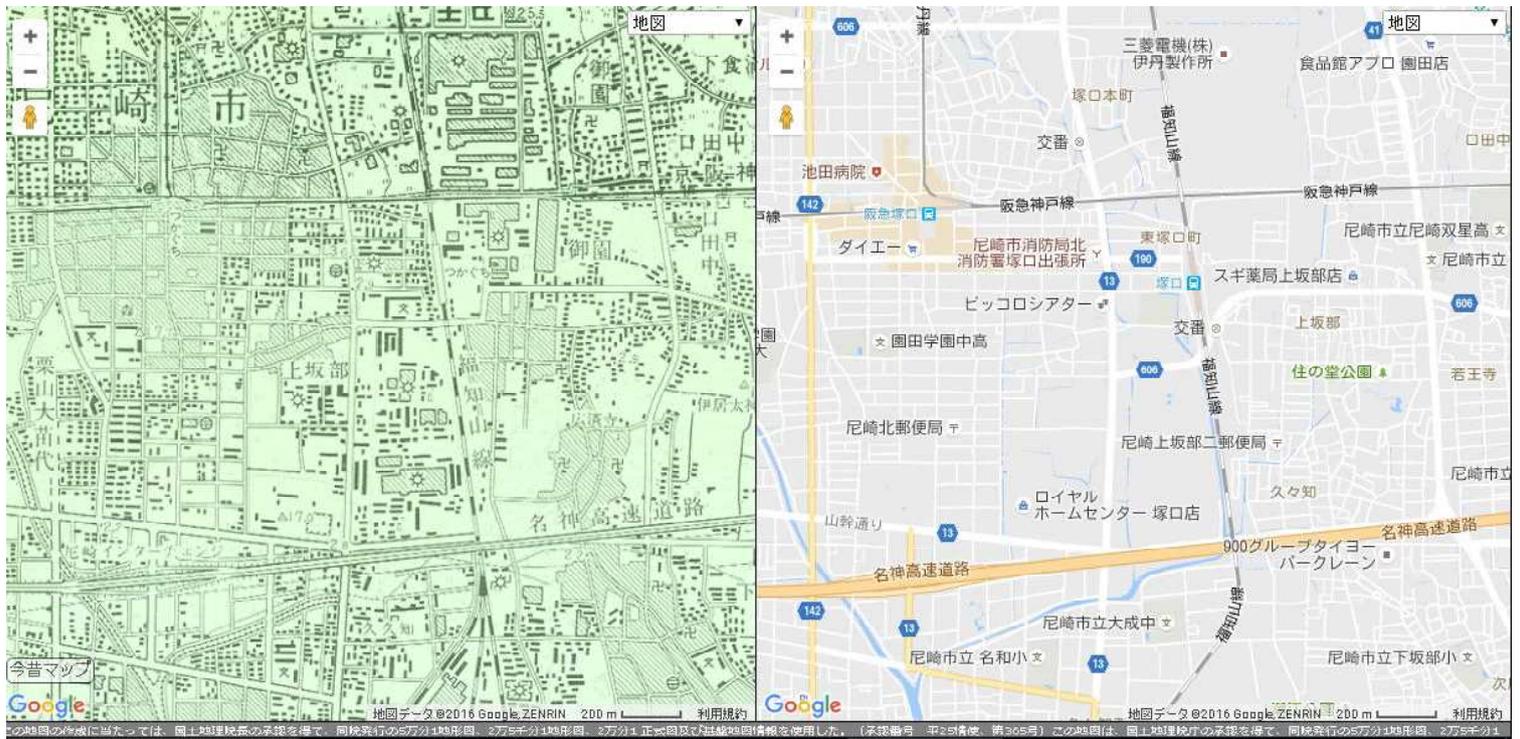
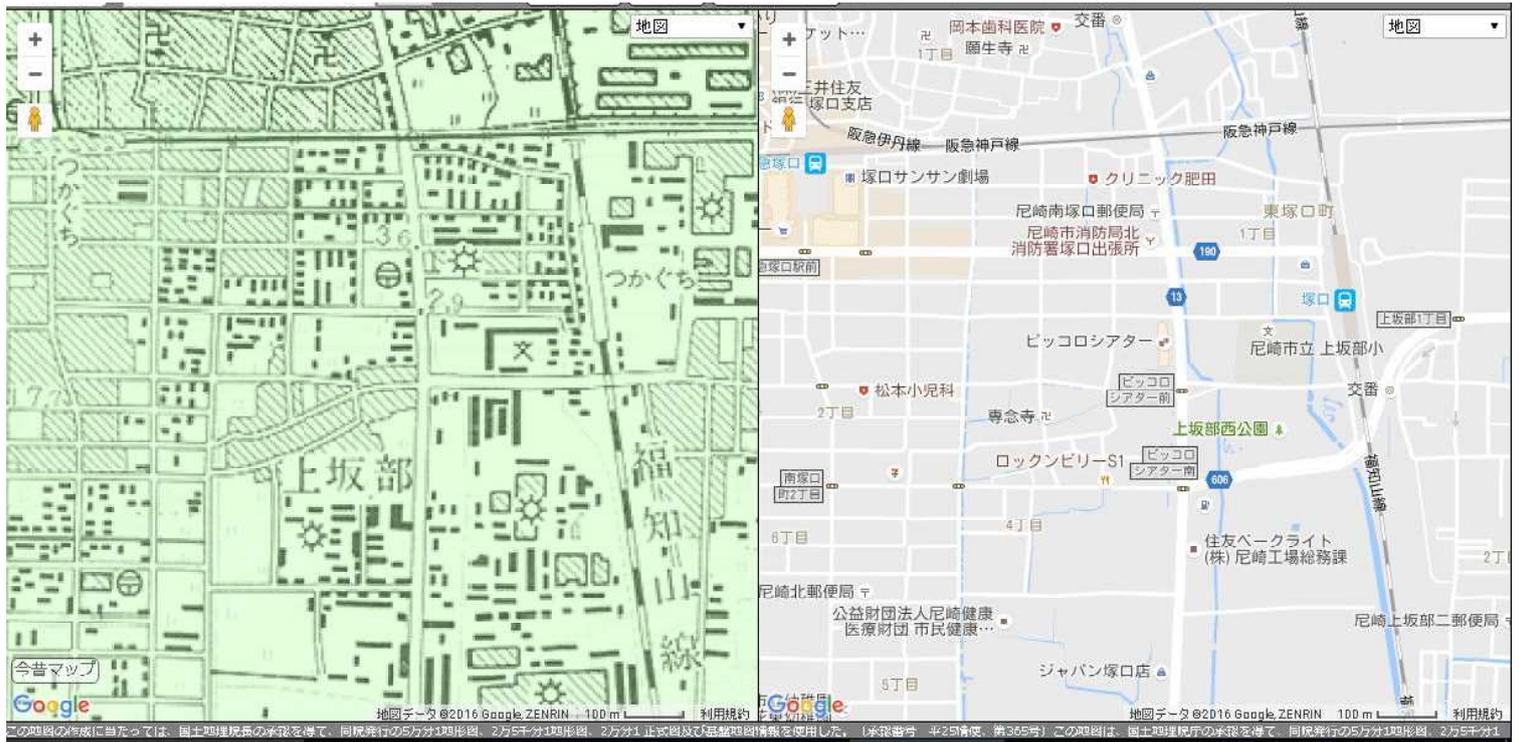
旧森永製菓塚口工場の所は、運動場とあります。また、阪神急行電鉄（京阪神急行電鉄＝阪急）が開通していて、塚口集落は、阪急塚口駅の北東に位置します。駅の南西と北西には区画化された道路が目を見せます。

1954～1956年ごろ



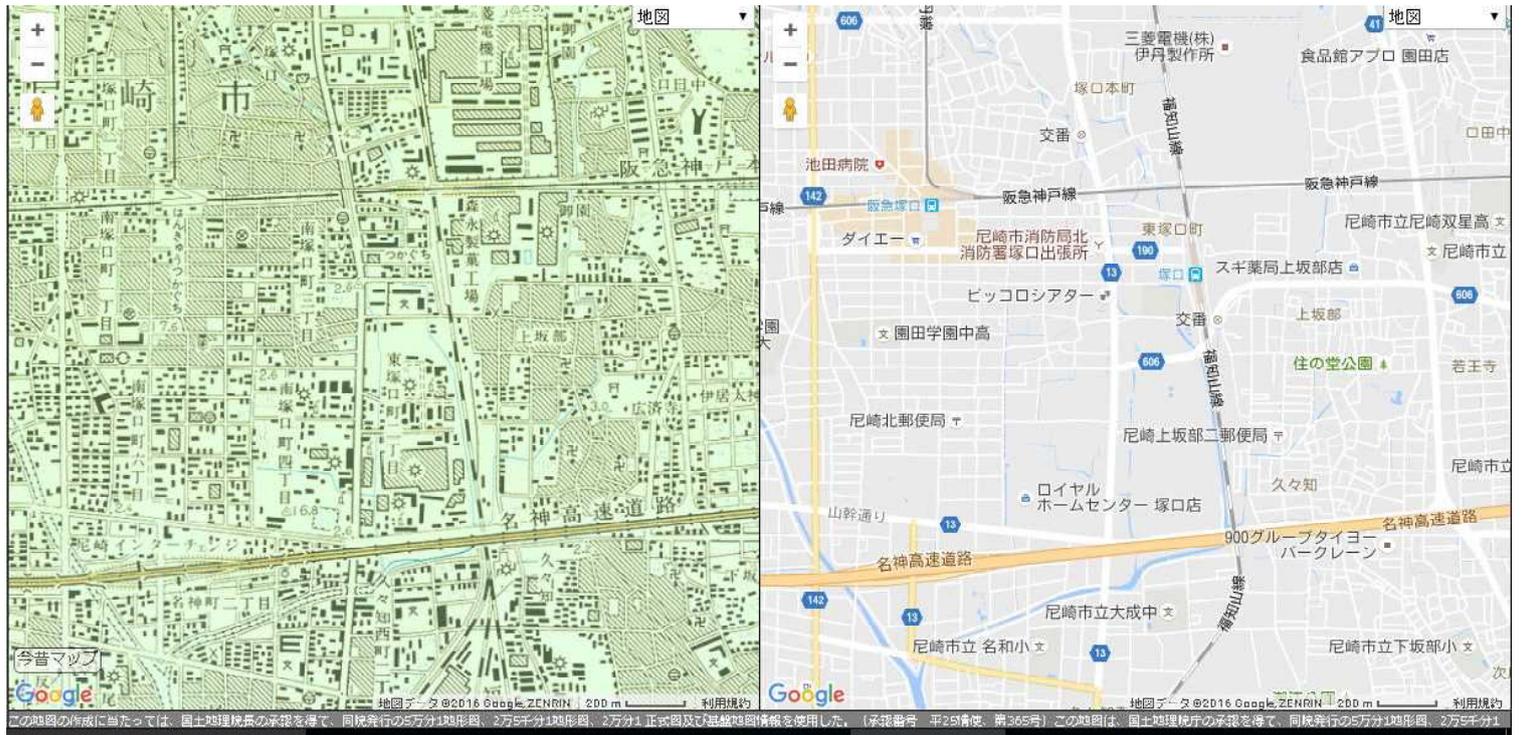
阪急線より北側は地図不明のため空白です。上坂部小学校もあります。また、ちらほらと工場らしき建物もあるようです。さらに阪急塚口南側は、区画の整備が進められているのがわかります。「高女高」とあるのは、園田高等女学校（現園田学園中・高等学校）です。下坂部は集落が拡大しています。

1967～1970年ごろ



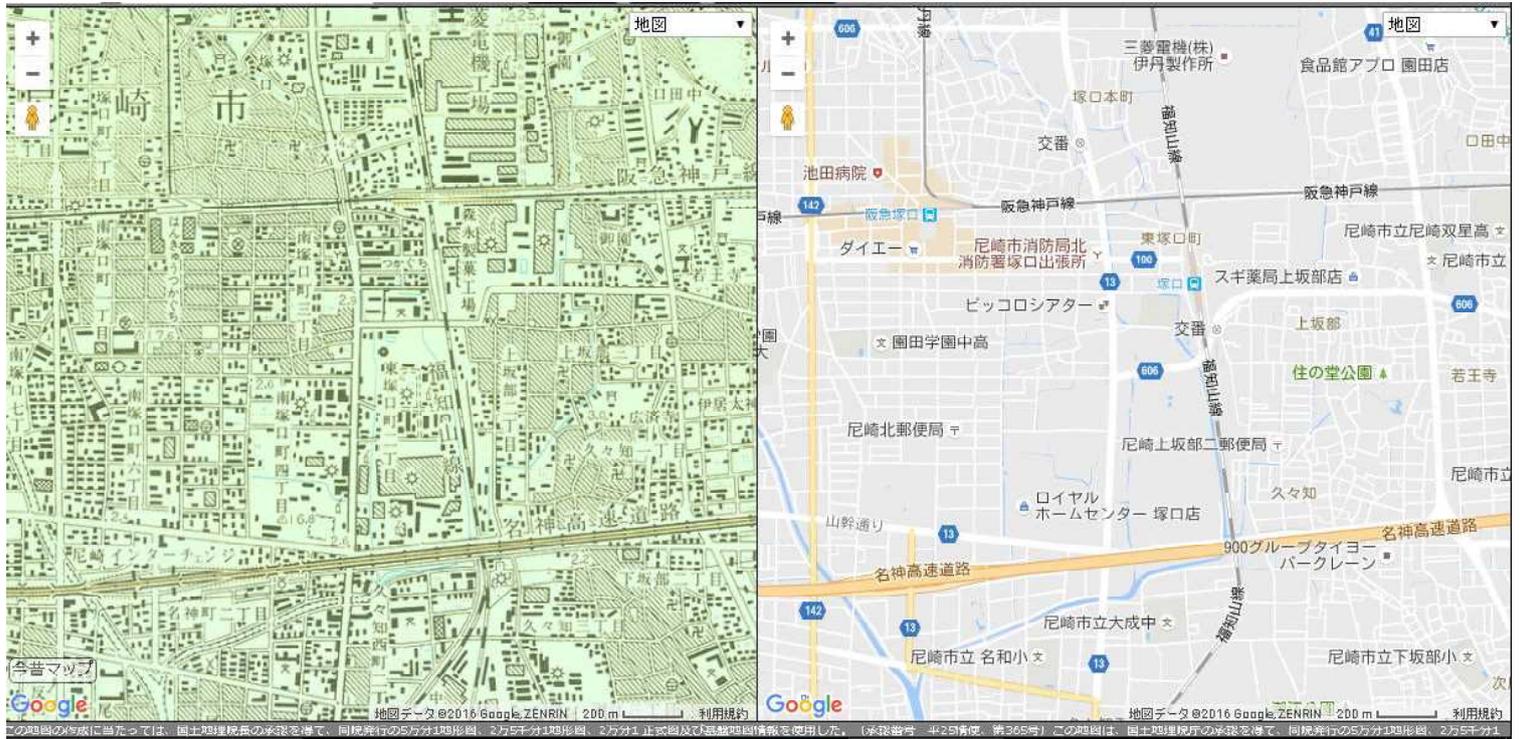
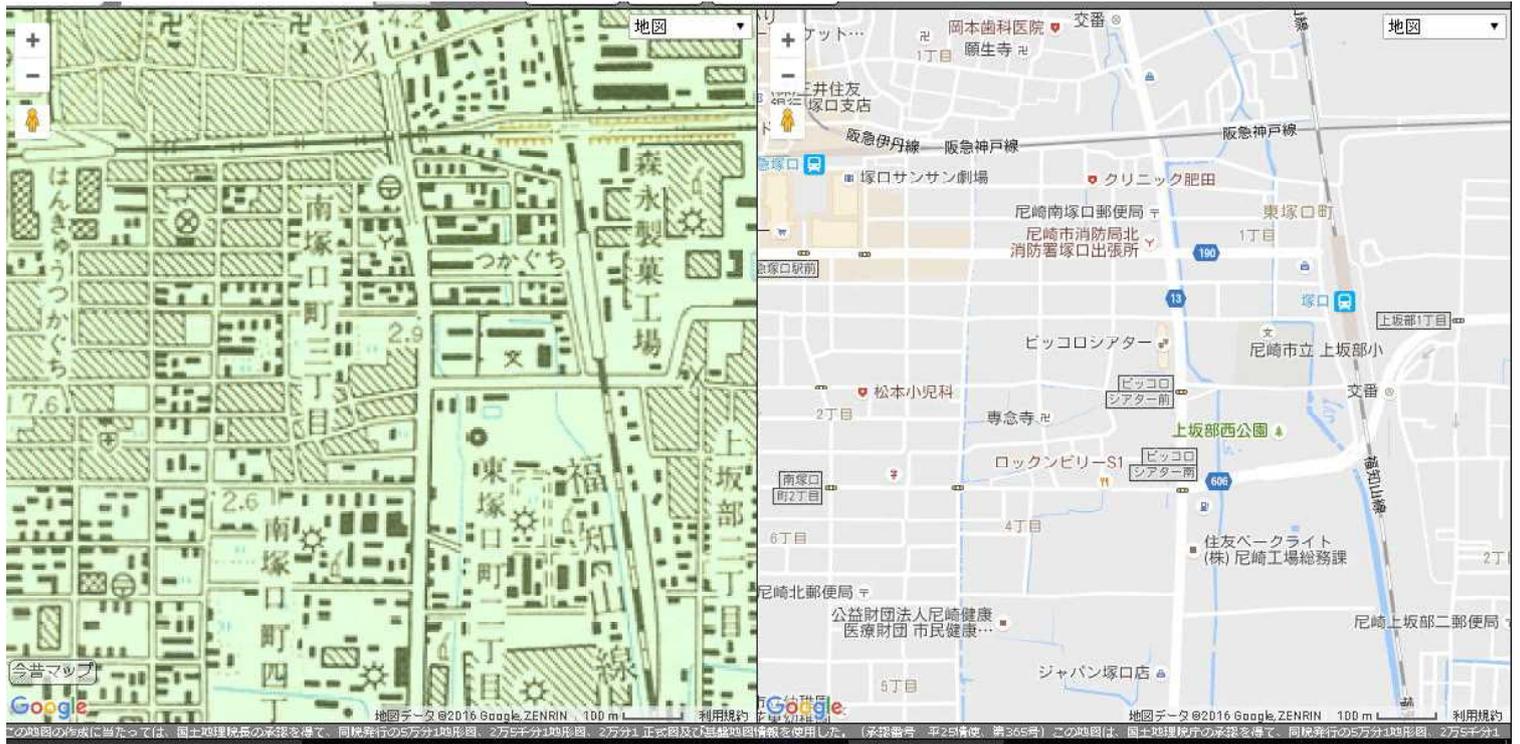
前頁の図（1954～1956年）から10年ちょっと後、1967～1970年ごろの様子です。この間は、日本の高度成長めざましい時期でした。尼崎市域全体が市街地化して、田んぼは僅かに残るだけです。特に阪急塚口あたりは、斜線で塗られ密集していることがわかります。大工場もあちこちに見られます。1970年と言えば、「人類の進歩と調和」をテーマに大阪万博が開かれた年、古きよき昭和の時代です。名神高速道路も造られ、東海道新幹線の開通とともに、日本の高速交通ネットワークが築かれようとする創成期でもありました。尼崎インターチェンジの文字や上坂部郵便局や北警察署の地図記号も見えます。

1975～1979年ごろ



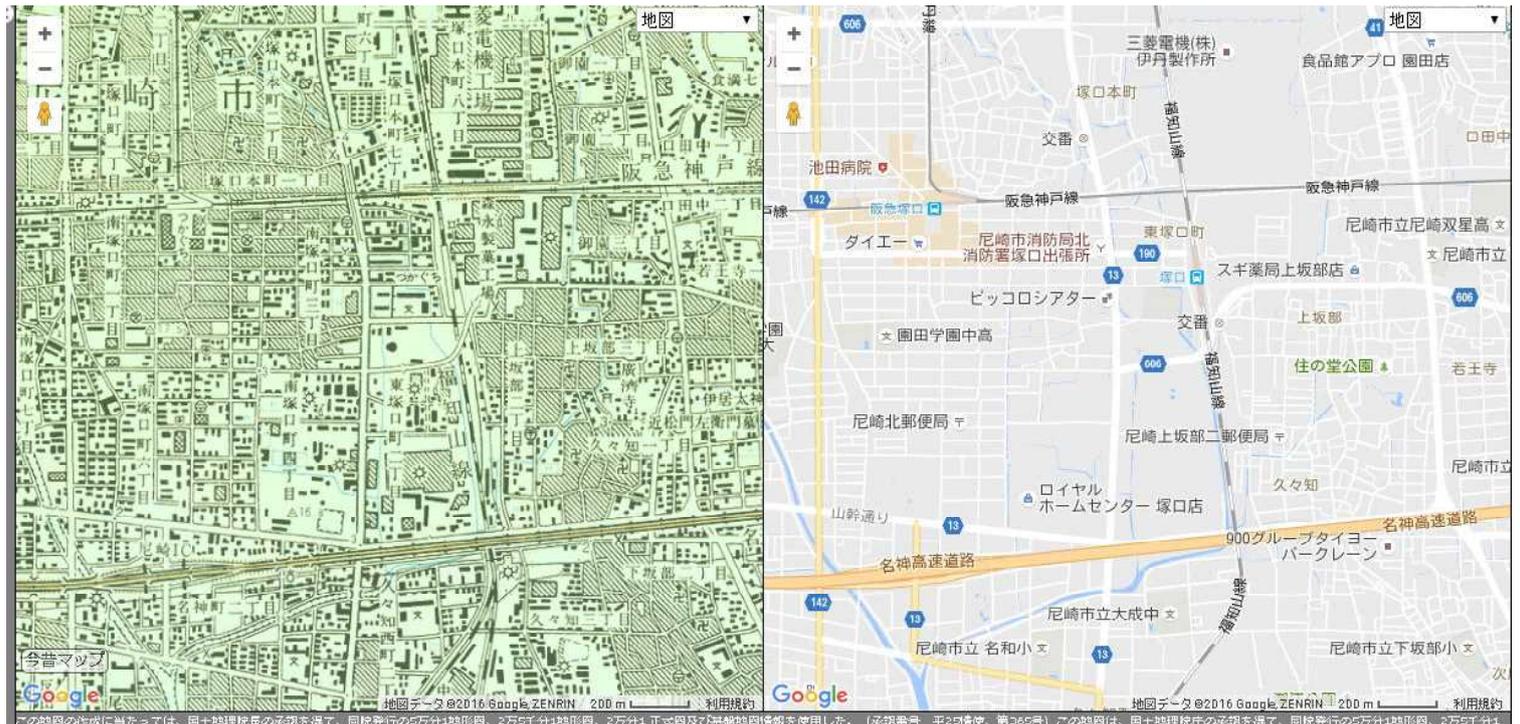
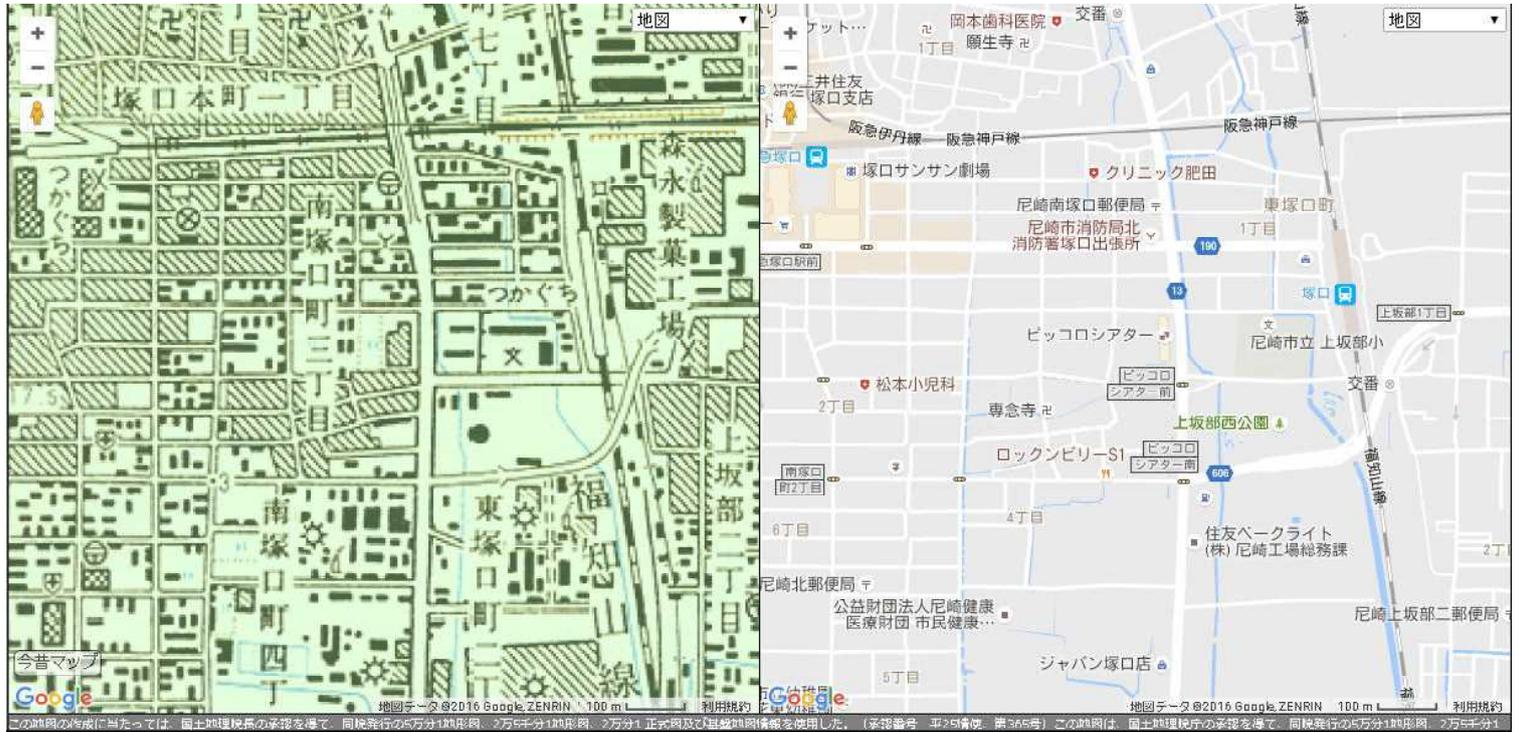
森永製菓工場の大きな文字が見られます。敷地が広大な大工場だったことが、地図からもわかります。前頁の地図にも森永工場の地図記号はありましたが、名前は載っていませんでした。三菱電機の工場も同様です。森永塚口工場は当時としては、日本で最新鋭かつ最大規模のチョコレート製造工場でした。福知山線の分岐（東海道線、尼港線、工場引込線）もまだあります。地名は、南塚口町1丁目など、「〇〇町 ◇丁目」という表示に変わっています。上坂部小学校の南側は、ほぼ空白になっていて、工場跡地らしきことが伺えます。ハーティ21の場所にぼ病院の地図記号が見られます。

1983～1988年ごろ



見た目、前頁とあまり変わっていないようです。塚口サンサンの建物が、交差線で塗られていて明白です。地図上のほとんどが、斜線で塗られていて市街地化されていますが、南西部はまだ、空き地や田んぼがあったようで、塗られてはいません。名神高速道路と交差する南側、福知山線の3分岐が2分岐に変わっています。

1993～1997年ごろ



この頁も前頁とあまり変わっていないように見えます。市街地化が行き渡った町（市）は、安定期に入ったのでしょうか。近年は、森永や精器工業所、キンビールの工場閉鎖と跡地のマンション林立が目立つ尼崎ですが、この時代は、まだ、そういった大きな変化見られないようです。時代とともに変わりゆく街の姿… 地図からもその様子が伺えます。今後、尼崎や上坂部はどのように変貌を遂げていくのでしょうか。